

令和3年度第1回中央区自殺対策協議会 議事（要旨）

1 日時 令和3年11月8日（月） 午後1時30分から午後2時40分まで

2 方法 Webexによるオンライン開催

3 出席者

【委員】

勝又陽太郎（委員長）、川畑俊一（副委員長代理）、岩重佳治、石松伸一、宮崎舜賢、羽鳥賢三、戸所綾子、前田宥全、栗山幸夫、小野淳、遠藤高志（代理）、須田功（代理）、長崎隆康、佐々木芳仁（代理）、永吉浩二（代理）、高野泰彦（代理）、黒川眞、濱田徹、田中智彦、吉田和子、渡瀬博俊、生島憲

【事務局】

健康推進課長、予防係長、健康推進担当係長他

議題

- 1 区内の自殺の実態
- 2 自殺対策に関する区の取組状況
- 3 自殺対策計画進捗確認シート
- 4 その他

従来は対面による開催としていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、オンラインでの開催に変更した。

議事の経過

1 区内の自殺の実態について

【事務局からの説明】

令和2年度の区内の自殺者数は24人で、自殺率14.26となっており、令和元年度（35人、21.54）より大幅に改善したが、令和3年9月末時点での暫定値は22人、年換算で29人と上昇している。

性別を見ると、男性16人、女性8人の2対1という比率で、これは令和元年度と同様な比率となっている一方、今年の暫定値では男性13人、女性9人と女性の割合が高くなっている。年齢別では、20歳代が男女とも3人、計6人と4分の1を占め、突出して高くなっている。

過去10年間の傾向を見ると、女性の割合が増えていること、また20歳代の自殺者の割合が増えていることが分かる。これは社会的活動性が高い若者に新型コロナウイルス感染症が大きく影響したのかもしれないが、はっきりした原因は不明である。

職業別では、無職の方が14人と令和元年度（17人）より減ったが、割合は5割弱から6割弱と増えている。原因・動機別に見ると、例年同様、健康問題が突出している。

手段に関しては、首つり（54.1%）、飛び降り（33.3%）となっており、飛び降りの比率が高いのが特徴となっている。

【委員からの意見】

自殺白書にも記載されているが、新型コロナウイルス感染症が自殺に与える影響に関しては研究が出そろってきて、全体で見ると、昨年6月－10月の第2波の際、若者・女性の自殺が増えている。

自殺予防学会等では、若者・女性の社会的立場が影響しているのではないかと議論になっているが、中央区での自殺の実態について、今後の推移を見守っていきたいと思う。

2 自殺対策に関する区の実施状況について

【事務局からの説明】

本区の自殺対策は大きく「普及啓発活動」「人材育成」に分かれる。

普及啓発活動については、毎年9月、3月の自殺対策強化月間に合わせ、保健所での懸垂幕の掲示、区報での特集記事の掲載、区内4施設（本庁舎、日本橋・月島特別出張所、保健所）でのパネル展示、江戸バスでのポスター掲示、八重洲地下街での街頭キャンペーン等々を行っている。また京橋、日本橋、月島の各図書館で、小中学校の夏休みに合わせ自殺予防関連図書を展示し、命の大切さ、心の健康等の普及啓発をしている。

人材育成については、ゲートキーパー養成講座を例年3回ほど実施しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、実施できていない。今後の感染状況にもよるが、現時点では来年3月に区内在住・在勤の方を対象に対面形式での開催を考えている。

【委員からの意見】

新型コロナウイルスの影響により活動を制限せざるをえなく、厳しい状況とは思いますが、工夫しながら自殺対策を推進していただきたい。多くの企業で在宅テレワークを実施し、出勤者が減ったことで飲食店への打撃はもちろんのこと、企業側も職場でのコミュニケーションの機会が減り、特に若い人が孤立しやすい状況があると、ある経営者の方が言っていた。若い女性の自殺が増えていること、区内の飲食店では休業となった店も多いと聞いているので、そういった方々に対するフォローを検討いただければと思う。

3 自殺対策計画進捗確認シートについて

【事務局からの説明】

関係部署や団体の協働による自殺予防に資する事業が中央区自殺対策計画に84個リストアップされている。これらの事業を連携させ、生きづらさの軽減という区における自殺予防対策の理念を達成するため、自殺対策計画を前進させていきたい。

【委員からの意見】

いくつかの区では、インターネットゲートキーパー事業をNPO法人に委託して行っており、LINEなどSNSでのやりとりは若者へのリーチとして有効なので、区でも導入を検討いただければと思う。

4 その他

【事務局からの説明】

次回協議会は1年後を予定している。時期が近づいたらあらためてご連絡する。